

# 第5回 長野市立地適正化計画改定 検討部会

(1) 目標値、評価方法（案）について

令和3年10月8日（金）  
都市整備部 都市政策課

## 0. 立地適正化計画の基本方針（第2回検討部会提示）

（黒字：現行計画、  
赤字：改定部分）

コンパクトな街を形成させるため一定の人口集積を図る「居住誘導区域」の設定

人口の変化や都市機能の集積状況と災害リスクを踏まえた「居住誘導区域」を定め、一定の人口集積のもと公共交通サービスや、日常生活を支える施設の立地などで将来にわたり居住地として利便性の高いエリアの維持・形成を目指す。

生活の利便性や街の魅力を高める機能の集積を図る「都市機能誘導区域」の設定

日常生活を支える施設に加え、長野市全体の魅力を向上させる施設を、鉄道やバスなどによりアクセスが容易で人が集まり易い「広域拠点」や「地域拠点」の徒歩圏に立地を誘導する「都市機能誘導区域」を定める。

各種の災害に対して安全・安心に暮らせるための方策の策定

- ・災害リスクの回避・軽減や地域の街づくりを踏まえ、将来にわたり持続可能な居住誘導区域・都市機能誘導区域とする（区域見直し検討）。
- ・避難計画強化や防災上重要な施設等の安全性確保、要配慮者等に考慮した防災・減災に資する各種方策（防災指針）を検討する。

都市構造や土地利用と連携した公共交通網の充実と利便性の向上

都市機能誘導区域、居住誘導区域の設定などの都市構造や土地利用計画と連携した公共交通網を形成する。人口の集積により公共交通サービスが成り立つ需要を維持していく。  
また、鉄道駅やバス車両のバリアフリー化やIT技術等により、公共交通をより使い易くすることで既存の交通ネットワークの活用を図る。

# 1. 基本方針と数値目標について

「6. 立地適正化計画の基本方針」にて示す4つの基本方針（現行計画&改定案）を踏まえて、各方針に基づき実施される施策の効果を定量的に評価する評価指標（アウトプット指標）と、「目指すべき都市の姿」への実現度を評価する成果指標（アウトカム指標）の見直しを検討します。

基本方針 (黒字：現行計画、赤字：改定案)	誘導施策	評価指標（案） (アウトプット指標)	目指すべき 都市の姿	成果指標（案） (アウトカム指標)
コンパクトな街を形成させるため一定の人口集積を図る「居住誘導区域」の設定	居住を誘導するための施策	居住誘導区域に関する評価指標	一定の人口集積によるコンパクトな街が形成され、日常生活の利便性が高く、災害に対して安心・安全に暮らせ、公共交通利便性が高いまちが実現	暮らしやすさ（利便性）に対する市民の意識を評価
生活の利便性や街の魅力を高める機能の集積を図る「都市機能誘導区域」の設定	都市機能を誘導するための施策	都市機能誘導に関する評価指標		災害への安全性に対する市民の意識を評価
各種の災害に対して安心・安全に暮らせるための方策の策定	居住誘導区域内の災害に関する防災対策	防災対策に関する評価指標		交通の利便性に対する市民の意識を評価
都市構造や土地利用と連携した公共交通網の充実と利便性の向上	公共交通の充実のための施策	公共交通に関する評価指標		

## 2. 数値目標（案）まとめ

### ■評価指標（アウトプット指標）（案）

	指標（案）	備考
①居住誘導区域に関する数値目標（案）	居住誘導区域内の人口密度	現行計画で採用
	居住誘導区域内の人口割合	宇都宮市等で採用
②都市機能誘導に関する数値目標（案）	都市機能誘導区域内に立地する誘導施設の割合	宇都宮市等で採用
③防災対策に関する数値目標（案）	地域防災マップ作成率	第五次長野市総合計画の統計指標
	防災訓練実施率	
④公共交通に関する数値目標（案）	市民1人あたりの公共交通の（年間）利用回数	現行計画で採用
	移動手段が確保された地区の人口割合	周南市等で採用

### ■成果指標（アウトカム指標）（案）

	指標（案）	備考
①暮らしやすさ（利便性）に対する市民の意識を評価	日常生活の利便性に対する市民の評価（アンケート）	現行計画で採用
②災害への安全性に対する市民の意識を評価	災害時の被害抑制対策に対する市民の評価（アンケート）	第五次長野市総合計画のアンケート指標
	災害時の備蓄対策に対する市民の評価（アンケート）	
③交通の利便性に対する市民の意識を評価	公共交通の利便性に対する市民の評価（アンケート）	現行計画で採用

## 2. 数値目標（案）

### ■評価指標①：居住誘導区域に関する数値目標（案）

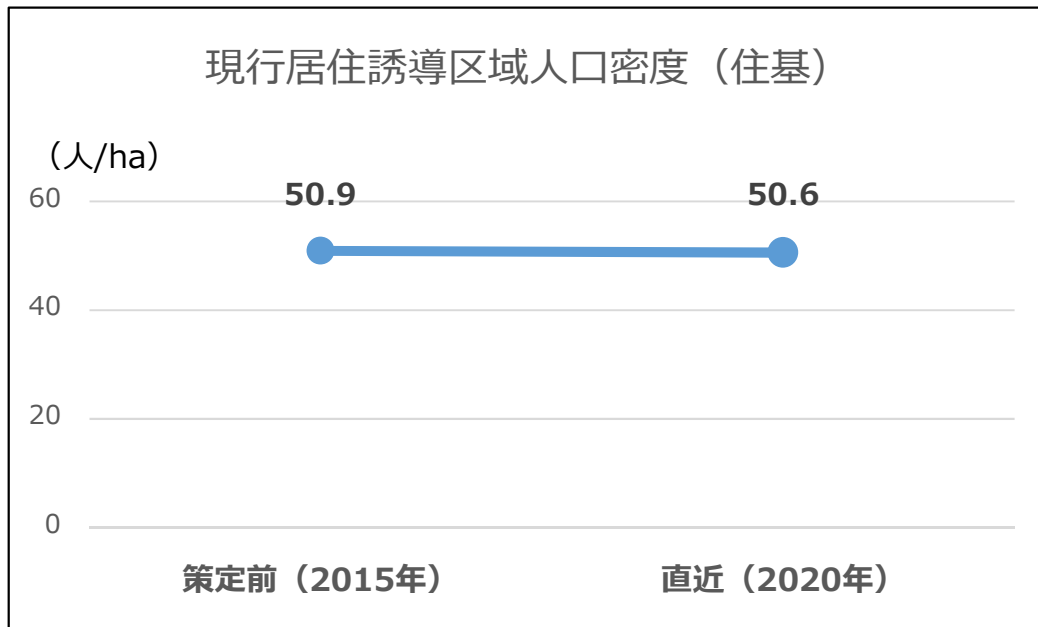
指標（案）	数値目標の位置付け	指標値の推移	目標値設定の考え方	備考
居住誘導区域内の人口密度	「 <u>一定の人口集積のもと…将来にわたり居住地として利便性の高いエリアの維持・形成</u> 」を定量的に評価する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定前：50.9人/ha（H27年）</li> <li>最新値：50.56人/ha（R2年）</li> </ul>	近年の人口減少傾向を踏まえて、全市域人口に対する <u>居住誘導区域内の人口比率が基準年以上の割合を維持できるように、将来目標値を設定することを検討。</u>	現行計画で採用
居住誘導区域内の人口割合	同上（目標は、現況の人口比率を維持するなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定前：74.6%（H27年）</li> <li>最新値：75.8%（R2年）</li> </ul>		宇都宮市等で採用

### ■成果指標①：暮らしやすさ（利便性）に対する市民の意識を評価（案）

指標（案）	数値目標の位置付け	指標値の推移	目標値設定の考え方	備考
日常生活の利便性に対する市民の評価（アンケート）	「 <u>日常生活を支える施設の立地などで将来にわたり居住地として利便性の高いエリアの維持・形成</u> 」の実現度を評価する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定前：49.4%（H27年）</li> <li>最新値：48.3%（R2年）</li> </ul>	市民アンケートによる満足度評価については、 <u>5年間を超えて中長期的に指標値の推移を確認していくことを考慮。</u>	現行計画で採用

## 【参考】居住誘導区域に関する数値目標（案）の推移 ※区域見直し前

### ■居住誘導区域内の人口密度推移



### ■居住誘導区域内の人口割合推移

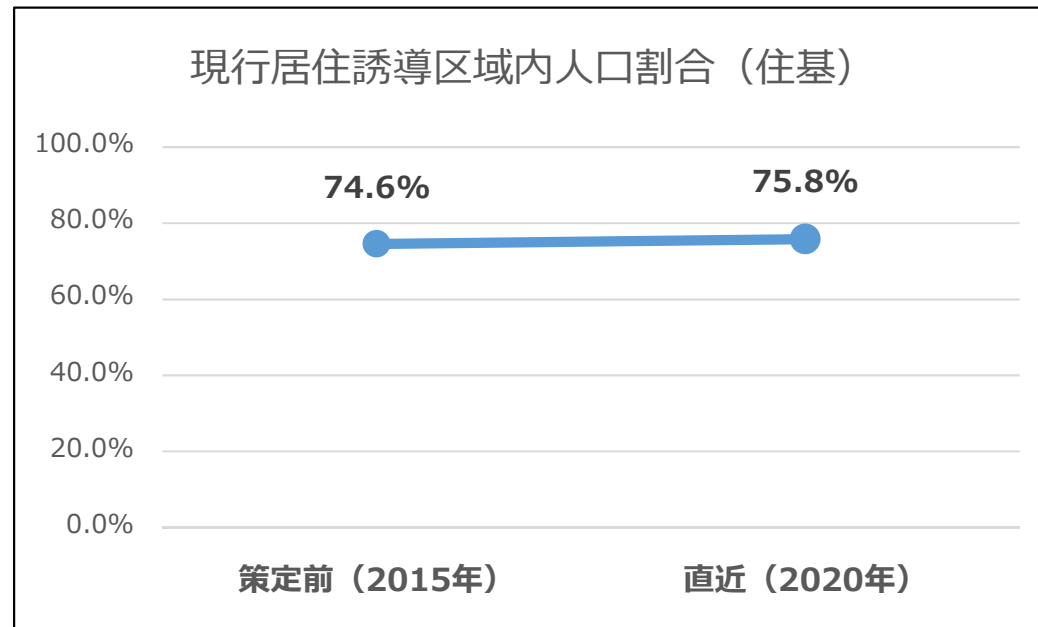


表 各エリアの住民基本台帳人口と割合

エリア	2015 住基人口	2020 住基人口
(A)長野市全体	383,630人	374,705人
(B)居住誘導区域	286,037人	284,052人
<b>B/A×100</b>	74.56%	75.80%

#### 【留意事項（共通）】

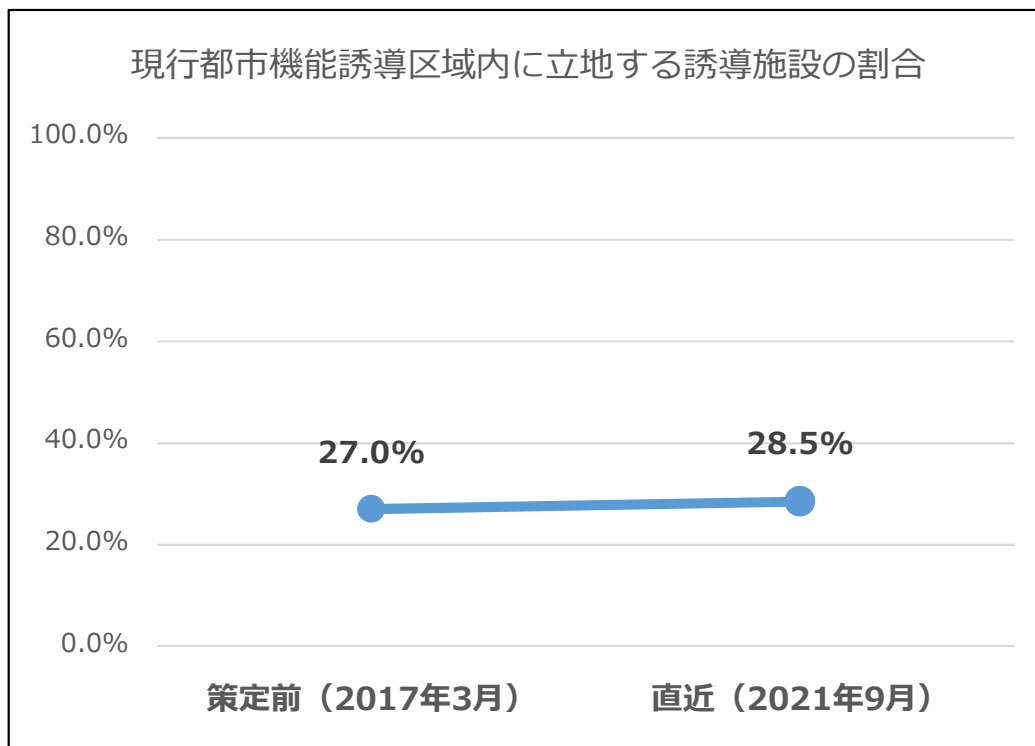
- ・見直し前の居住誘導区域にて算出
- ・住民基本台帳データ（H27、R2.5.16）より作成

## 2. 数値目標（案）

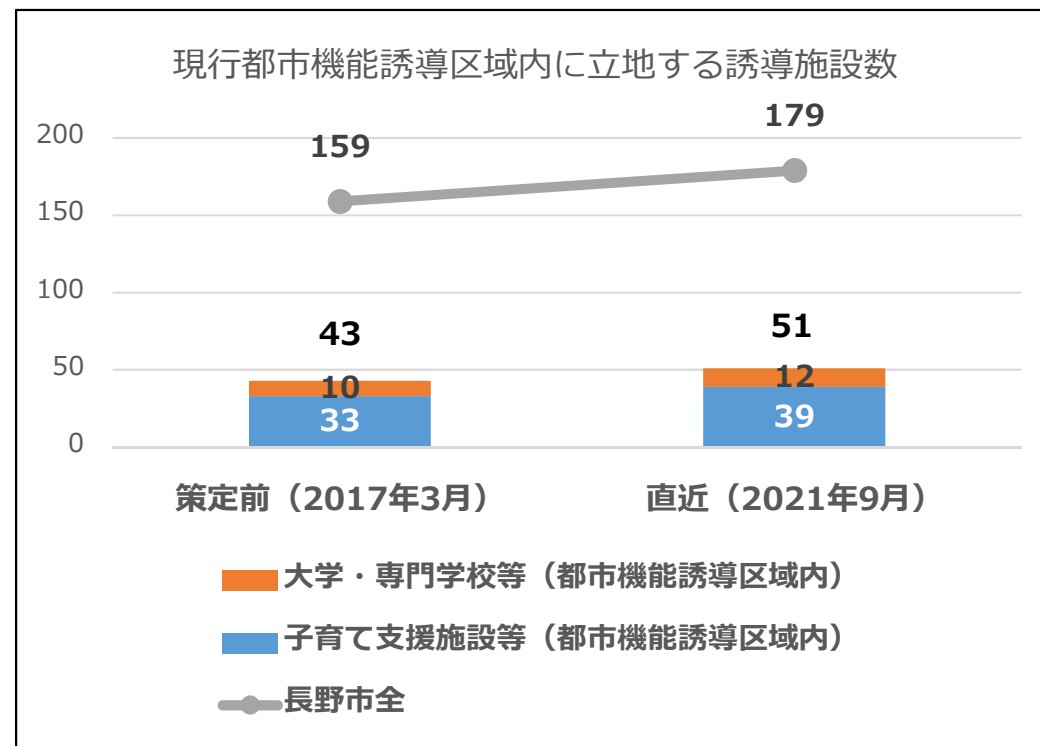
### ■評価指標②：都市機能誘導に関する数値目標（案）

指標（案）	数値目標の位置付け	指標値の推移	目標値設定の考え方	備考
都市機能誘導区域内に立地する誘導施設の割合	「日常生活を支える施設に加え、 <u>長野市全体の魅力を向上させる施設の誘導</u> 」を定量的に評価する指標	<p>※<u>全都市機能誘導区域に共通する誘導都市機能（教育機能と子育て支援機能）に限定して算出</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>策定前：27.0%（H29年3月）</li> <li>最新値：28.5%（R3年9月）</li> </ul>	現況の都市機能誘導区域内に立地する誘導施設の割合（市全体に占める割合）を基準値として、将来目標値を設定することを検討。	宇都宮市等で採用

■都市機能誘導区域内に立地する誘導施設の割合推移



【参考】都市機能誘導区域内に立地する誘導施設数推移



【留意事項（共通）】

- 見直し前の都市機能誘導区域にて算出
- 全ての誘導都市機能へ誘導する機能である「教育機能《大学（サテライトキャンパス含む）・専門学校等の教育施設》」「子育て支援機能《長時間・一時預かり施設等》」に限定して割合・施設数とも算出（一部の都市機能誘導区域に誘導する「文化機能」と「福祉機能」は本検討においては対象外とした）
- 長野市資料（R3現時点）より作成



## 【参考】都市機能誘導に関する数値目標（案）文化機能立地状況 ※区域見直し前

### 【参考】長野市内の登録博物館・博物館相当施設

館名	開館年	都市機能誘導区域
長野県信濃美術館・東山魁夷館	2021年建替え	長野地区内
長野市立博物館分館 戸隠地質化石博物館	S55	
長野市立博物館	S56	
長野市立博物館分館 信州新町美術館・有島生馬記念館	S57	
公益財団法人北野美術館	S43	
公益財団法人水野美術館	H14	
公益財団法人北野美術館分館 北野カルチュラルセンター	H16	長野地区内※
信濃教育博物館	S59	長野地区内※
善光寺大勧進宝物館	明治頃	長野地区内※

### 【参考】長野市内の図書館（本館）

館名	現庁舎開館年	都市機能誘導区域
県立長野図書館	S54.8	長野地区内※
長野市立長野図書館	S60	長野地区内※
長野市立南部図書館	S54.6	篠ノ井地区内
ライブラリー82	S63.6	長野地区内※

※長野地区都市機能誘導区域へ誘導する施設は「文化機能《美術館》」であるが、篠ノ井地区の「文化機能《図書館》」および松代地区の「文化機能《博物館》」についても参考として把握した。

策定前：8施設のうち都市機能誘導区域内3施設



策定後：9施設のうち都市機能誘導区域内4施設

出典：長野県公共図書館概況（令和2年8月）より作成

策定前：4施設のうち都市機能誘導区域内4施設



策定後：4施設のうち都市機能誘導区域内4施設

出典：令和2年度教育要覧（長野県教育委員会）より作成

#### 【留意事項（共通）】

- ・見直し前の都市機能誘導区域にて抽出

## 【参考】都市機能誘導に関する数値目標（案）福祉機能立地状況 ※区域見直し前

### 【参考】長野市内の老人福祉センター

施設名	都市機能誘導区域
かがやきひろば湯福（湯福老人福祉センター）	
かがやきひろば柳町（柳町老人福祉センター）	
かがやきひろば三陽（三陽老人福祉センター）	
かがやきひろば吉田（吉田老人福祉センター）	
かがやきひろば東北（東北老人福祉センター）	
かがやきひろば安茂里（安茂里老人福祉センター）	
かがやきひろば篠ノ井（篠ノ井老人福祉センター）	篠ノ井地区
かがやきひろば氷鉦（氷鉦老人福祉センター）	
かがやきひろば豊野（豊野老人福祉センター）	
かがやきひろば鬼無里（鬼無里老人福祉センター）	
かがやきひろば中条（中条老人福祉センター）	

※「福祉機能《老人福祉センター》」を都市機能誘導区域へ誘導すると設定されているのは、**篠ノ井地区**のみ。

策定前：市内10施設のうち都市機能誘導区域内0施設



策定後：市内11施設のうち都市機能誘導区域内1施設

## 2. 数値目標（案）

### ■評価指標③：防災対策に関する数値目標（案）

指標（案）	数値目標の位置付け	指標値の推移	目標値設定の考え方	備考
自主防災組織の地域防災マップ作成率	「 <u>災害リスクの回避・軽減や地域の街づくり、避難計画強化や要配慮者等に考慮した防災・</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定前：65.8%（H27年度）</li> </ul>	第五次長野市総合計画に示されている目標値を参考に設定することを検討。	第五次長野市総合計画の「政策1 災害に強いまちづくりの推進」「施策1 防災・減災対策の推進」における統計指標
自主防災組織の防災訓練実施率	<u>減災に資する各種方策」</u> などを定量的に評価する数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定前：87.1%（H27年度）</li> </ul>	同上。	

### ■成果指標②：災害への安全性に対する市民の意識を評価（案）

指標（案）	数値目標の位置付け	指標値の推移	目標値設定の考え方	備考
災害時の被害抑制対策に対する市民の評価（アンケート）	「 <u>災害リスクの回避・軽減や地域の街づくり、防災・減災に資する各種方策」</u> などの実現度を評価する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定前：35.5%（H27年度）</li> </ul>	第五次長野市総合計画に示されている目標値を参考に設定することを検討。	第五次長野市総合計画の「政策1 災害に強いまちづくりの推進」「施策1 防災・減災対策の推進」におけるアンケート指標（市民が思う割合）
災害時の備蓄対策に対する市民の評価（アンケート）		<ul style="list-style-type: none"> <li>策定前：41.1%（H27年度）</li> </ul>	同上。	

## 2. 数値目標（案）

### ■評価指標④：公共交通に関する数値目標（案）

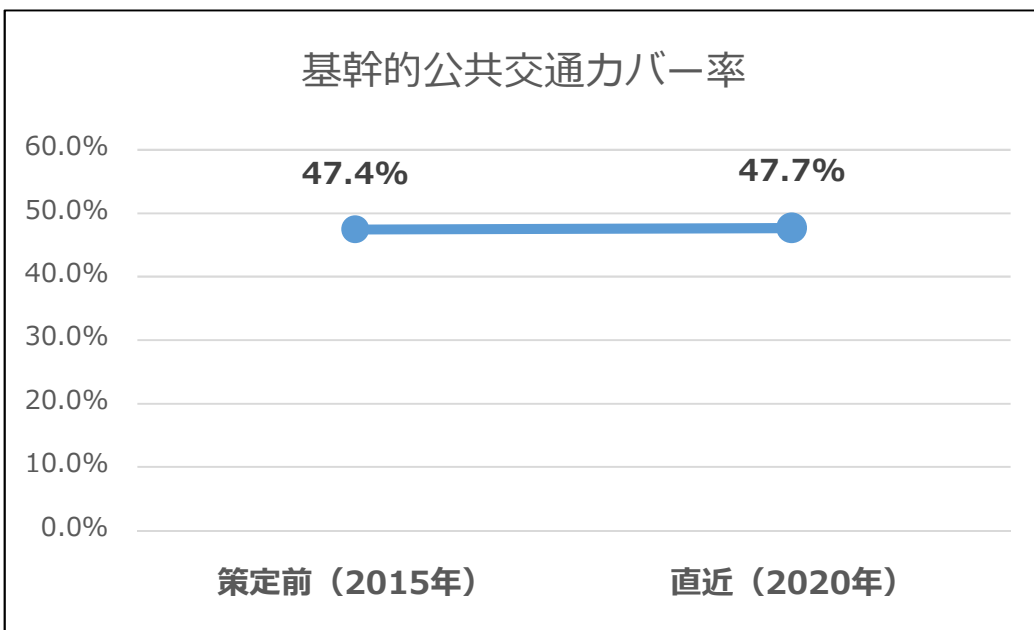
指標（案）	数値目標の位置付け	指標値の推移	目標値設定の考え方	備考
市民1人あたりの公共交通の(年間)利用回数	「人口の集積により公共交通サービスが成り立つ需要の維持」を定量的に評価する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定前：128.5回/人（H26年）</li> <li>最新値：133.5回/人（R1年）</li> </ul>	コロナ禍の影響により、令和2年以降は公共交通の年間利用回数が減少していることが想定される。	現行計画で採用
移動手段が確保された地区の人口割合（基幹的公共交通の人口カバー率）	「都市構造や土地利用計画と連携した公共交通網の形成」を定量的に評価する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定前：47.4%（H27年）</li> <li>最新値：47.7%（R2年）</li> </ul> <p>※上記集計範囲は都市マスの第3章と整合（次頁を参照）</p>	上記の理由より、現行の評価指標2)を基幹的公共交通路線圏域の人口カバー率で代替することも含めて検討。	周南市等で採用

### ■成果指標④：公共交通の利便性に対する市民の意識を評価（案）

指標（案）	数値目標の位置付け	指標値の推移	目標値設定の考え方	備考
公共交通の利便性に対する市民の評価（アンケート）	「公共交通網の形成や既存の交通ネットワークの活用」の実現度を評価する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定前：35.7%（H27年）</li> <li>最新値：32.7%（R2年）</li> </ul>	市民アンケートによる満足度評価については、5年間を超えて中長期的に指標値の推移を確認していくことを考慮。	現行計画で採用

# 【参考】公共交通に関する数値目標（案）の推移

## ■基幹的公共交通カバー率の推移



### 【留意事項】

- 基幹的公共交通カバー率とは、鉄道駅及び運行頻度が片道30本/日以上サービス水準を有するバス停の利用圏域（鉄道駅から800m圏内、バス停から300m圏内）内の人口を長野市全体の人口で除し算出した割合
- 2時点とも右図の範囲にて算出
- 住民基本台帳データ（H27、R2.5.16）より作成

## 【参考】集計区域（都市計画マスタープランより）

